

日本共産党・広次忠彦です。発言通告にそって、一問一答方式で質問します。

最初に、水道行政について質問します。1点目は耐震対策についてです。水道はライフラインのなかで最も重要なものであることは論をまちません。東日本大震災の状況を顧みても、水道施設の耐震対策は重要です。全国の導水管と送水管の総延長(41314km)にたいする耐用年数40年を超えるものは、日本水道協会の資料をもとに計算すると、2008年度で9・57%(3953km)です。また配水管(576,823km)の場合、6・79%(39147km)となっています。大分市の場合、2009年度で、導水管・送水管・配水管の合計で5・4%となっています。また基幹管路の耐震化率は2010年度58・7%、管路の耐震化率は8・2%となっています。水道管のすべてを耐震管にするにはばく大な費用がかかることは、この間の議会答弁でも明らかです。そこで重要性、緊急性などによって耐震管の普及をすすめることとあわせて、災害が発生したときの対策が重要です。

そこで質問しますが、今後の耐震管の普及について、どのようにすすめていくか、見解を求めます。(質問1)

耐震管の普及には相当の期間を要しますが、それまでに震災が発生した時、応急措置、復旧対策はどのようにすすめていかれているのでしょうか、見解を求めます。(質問2)

高架の配水池などは、耐震対策が十分でなければ、倒壊などのおそれがあります。耐震対策が必要な施設も、実施予定が2015年以後という施設もあり

ます。これで、市民の安全と水道水の安定した供給ができるでしょうか。

そこで質問しますが、施設の耐震化はどのようにすすめているのでしょうか、見解を求めます。(質問3)

つぎの質問に移ります。都市計画行政について、都市交通対策について質問します。総合計画でも、植田市民行政センター付近は新都心・交通結節点として整備されることが計画されています。この付近には、商業施設と同時に、医療機関も集積しています。「支所に行くのに、バス停から遠い何とかしてほしい」「メディカルタウン付近にバス停があると助かる」「商業施設付近にもバス停がほしい」などの声が寄せられてきました。10月から行政センターと三愛病院付近にバス停ができ、野津原と富士見が丘方面とのバス路線については、供用が開始されると聞き、実現を要求してきた一人として喜んでいきます。

そこで質問しますが、わさだタウンを經由あるいは終点となるバス路線についても、新しいバス停が利用できるように、関係機関と協議し、実現に努力していただきたいと考えますが、見解を求めます。(質問4)

メディカルタウン前のバス停を設置するために、わさだタウン側3車線の第一車線にバス停を設置できるように、関係機関と協議し、実現に努力していただきたいと考えますが、見解を求めます。(質問5)

つぎに福祉保健行政について質問します。1点目は、大分市民いこいの家「やすらぎ」の廃止についてです。第2回定例会の常任委員会で、突然廃止の提案

がされました。廃止の理由は、大分市内にも温泉ができ、別府市内にも低廉な温泉宿泊施設ができたこと、利用者が減少したこと、毎年4500万円の負担があること、近い将来大規模な改修が必要であることと説明されました。

廃止の理由としていることは、最近わかってきたことではありません。少なくとも10年も前からあることであり、予想されることばかりです。

そこで質問しますが、「やすらぎ」の廃止は、行財政改革の一環として、市民のささやかな楽しみ・やすらぎをうばうことになるのではないのでしょうか、見解を求めます。(質問6)

「やすらぎ」のような施設は、廃止をするのではなく、なんらかの方法で存続させることを検討すべきとかがえませんが、見解を求めます。(質問7)

つぎの質問に移ります。福祉保健行政の2点目は、動物愛護についてです。市民から「犬や猫を殺処分するのはかわいそう。熊本市の取り組みに学んでは」「公園などで猫に餌をやっているが、野良猫が増えて困る。やめてほしい」などの声が寄せられています。先日、熊本市動物愛護センターに視察に行ってきました。その取り組みを紹介しながら質問します。

熊本市では自前の動物愛護センターを持っているという条件の違いはありますが、飼い犬は最後まで飼い主が飼育するという基本的姿勢を貫き、安易な受け入れをしていません。大分市でも、受け入れ頭数が減れば、殺処分は減るのではないのでしょうか、見解を求めます。(質問8)

熊本市では譲渡会前に、事前講習会を開催し、飼い主の責任などについて十

分知ってもらう努力をされてきました。県に依拠するだけでなく、市としても開催してはどうかと考えますが、見解を求めます。(質問9)

熊本市では、施設でのトリミングなどをおこなって、新たな飼い主を見つけやすくしています。この点は要望しておきます。

熊本市では「地域ねこ」という考え方にもとづいて、餌やり、糞の掃除などを地域でおこなう、行政からは避妊処理への補助などをおこなって、いまいる猫と共存する方法に取り組む地域を増やす努力をしています。大分市でも、同様の取り組みをすすめる方向で検討する考えはないでしょうか、見解を求めます。(質問10)

最後の質問に移ります。教育行政について、学校給食費について質問します。

中学校の給食は、去年の西部共同調理場の供用開始によって、東西の共同調理場でまかなわれています。当然、これまでの各共同調理場会計は閉鎖されました。ところで、各共同調理場内の学校には少なからず、給食費の未納があります。この未納給食費を回収した場合、どのように処理されているのでしょうか、見解を求めます。(質問11)